

令和元年度

「千歳市第3期都市計画マスタープラン策定」

のための市民アンケート調査

【概要版】

令和2年3月

千歳市

【目次】

| | |
|---|-----------|
| 1. 業務概要 | 3 |
| 1-1 業務の目的 | |
| 1-2 調査の対象 | |
| 1-3 質問内容 | |
| 1-4 回収状況 | |
| 2. 回答者属性 | 4 |
| 3. 現在の千歳市のまちづくりについて | 6 |
| 4. 現在のお住まいと今後の居留意向 | 12 |
| 5. 生活利便施設や移動手段の利用実態と今後の見通しについて | 14 |
| 6. 将来(10年～20年後)の持続可能なまちづくりについて | 19 |

1. 業務概要

1-1 業務の目的

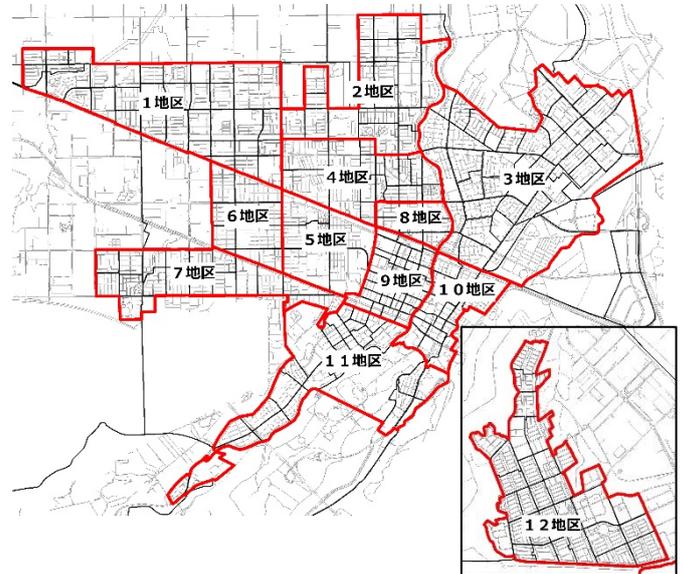
「千歳市第3期都市計画マスタープラン」の策定にあたり、まちづくりに対する市民意向などを把握し、今後のまちづくりに生かしていくため、市民アンケート調査を実施しました。

1-2 調査の対象

- ・実施地域：千歳市全域
- ・対象：千歳市在住の18歳以上の男女
- ・配布数：3,000名
- ・抽出方法：住民基本台帳から地区別・年代別に等間隔で無作為抽出

1-3 質問内容

千歳市第2期都市計画マスタープラン（以下、「前計画」）策定時のアンケート調査でも組み入れたまちづくりに対する「満足度」「重要度」に関する設問を含め選択式（一部、記述形式を含む）の質問としました。（全25問）



【質問項目】

1. 現在の千歳市のまちづくりについて〔問1～3〕
2. 現在のお住まいの今後の居住意向について〔問4・5〕
3. 生活利便施設や移動手段の利用実態と今後の見通しについて〔問6～10〕
4. 将来（10年～20年後）の持続可能なまちづくりについて〔問11～18〕
5. あなたご自身について〔問19～25〕

1-4 回収状況

- ・配布：令和元年10月10日（木）発送
- ・回収：郵送にて回収（返信用封筒を同封）
※〆切：令和元年10月31日（火）。ただし、12月31日（火）投函分までを集計
- ・回収数：940票
- ・回収率：31.3%（ $940/3,000 \times 100 = 31.3\%$ ）

【地区別の・回収数】

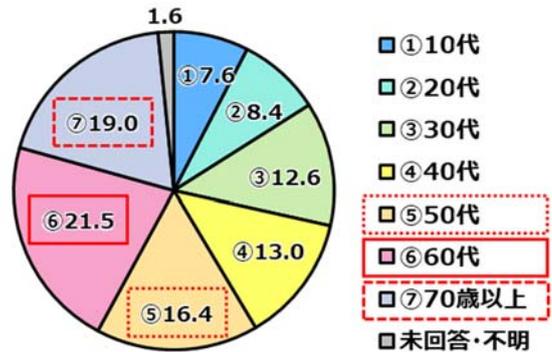
| 地区名 | 回収数 | 割合 | H27国調人口（参考） | |
|----------------------|-----|--------|-------------|-------|
| ①1地区（長都駅前、みどり台、勇舞など） | 170 | 18.1% | 15,433 | 16.1% |
| ②2地区（清流、あずさ、稲穂など） | 84 | 8.9% | 7,912 | 8.3% |
| ③3地区（住吉、豊里、青葉など） | 152 | 16.2% | 15,878 | 16.6% |
| ④4地区（富丘、花園、高台） | 57 | 6.1% | 7,707 | 8.1% |
| ⑤5地区（新富、北栄） | 53 | 5.6% | 5,349 | 5.6% |
| ⑥6地区（信濃、富士） | 49 | 5.2% | 5,077 | 5.3% |
| ⑦7地区（桜木、自由ヶ丘、北斗） | 71 | 7.6% | 7,500 | 7.8% |
| ⑧8地区（未広） | 23 | 2.4% | 2,875 | 3.0% |
| ⑨9地区（清水町、錦町、栄町など） | 17 | 1.8% | 3,327 | 3.5% |
| ⑩10地区（本町、朝日町、東雲町） | 35 | 3.7% | 2,390 | 2.5% |
| ⑪11地区（桂木、春日町、大和など） | 66 | 7.0% | 7,660 | 8.0% |
| ⑫12地区（白樺、柏陽、文京など） | 81 | 8.6% | 9,347 | 9.8% |
| ⑬13地区（上記市街地以外） | 34 | 3.6% | 5,193 | 5.4% |
| 未回答・不明 | 48 | 5.1% | | |
| 合計 | 940 | 100.0% | 95,648 | |

2. 回答者属性

(1) 年齢〔問 19〕

回答者の年齢は「60歳代」が最も多く、21.5%となっています。次いで、「70歳以上」が19.0%、「50歳代」が16.4%となっており、比較的年齢の高い方の回答が多くなっています。

前計画策定時のアンケート調査結果と近い割合構成となっていますが、50歳代以下の回答割合が減少し、60歳以上の回答割合が増加しています。

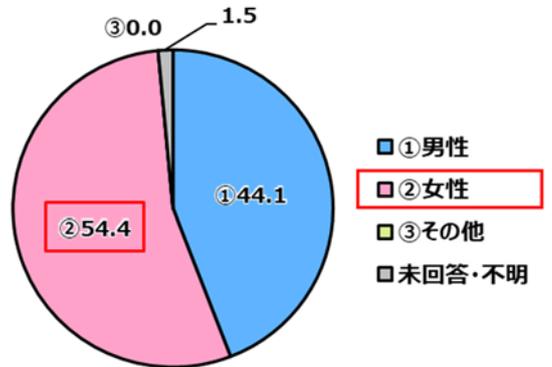


(2) 性別〔問 20〕

性別では「女性」が54.4%と過半数となっています。

前計画策定時のアンケート調査結果では、未回答・不明の割合が約26%（4人に1人が不明）となっていますが、男性・女性の回答者割合（比率）は、不明を除くと今回の調査とほぼ同じ割合（女性：約56%、男性：約44%）となっています。

n=940

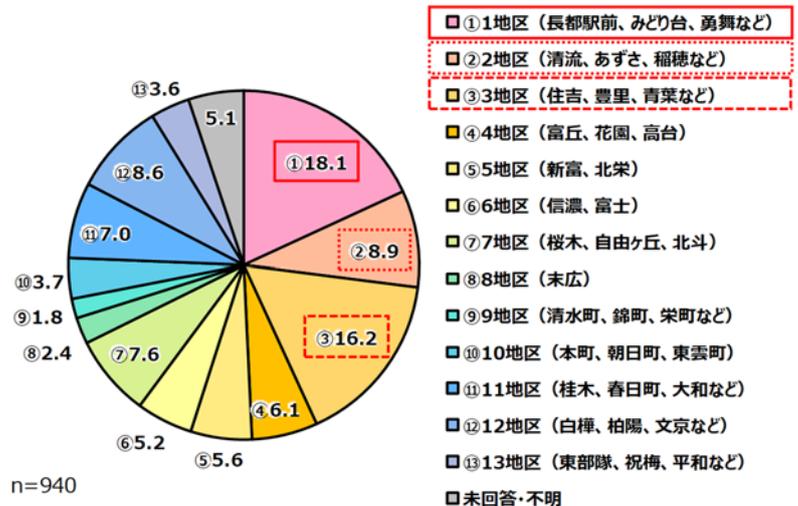


n=940

(3) 居住地〔問 21〕

居住地では、長都駅前・みどり台・勇舞などの「1地区」が18.1%と最も多く、次いで住吉・豊里・青葉などの「3地区」が16.2%、清流・あずさ・稲穂などの「2地区」が8.9%となっており、この3地区で全体の43.2%を占めています。

前計画策定時のアンケート調査結果では、3地区・12地区・1地区の順となっています。

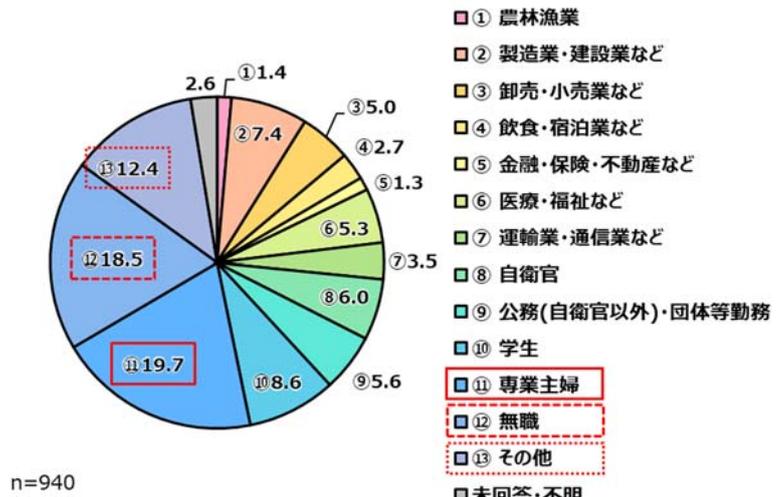


n=940

(4) 職業〔問 22〕

職業では「専業主婦」が 19.7%と最も多く、次いで「無職」が 18.5%、「その他」が 12.4%となっています。

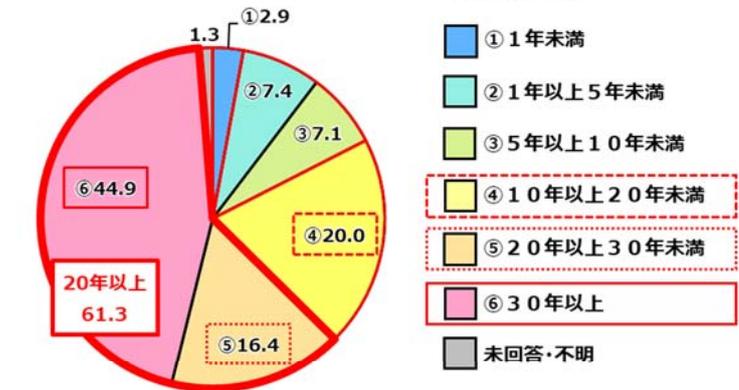
上位の 3 つは、前計画策定時のアンケート調査結果と同じですが、「無職」の回答割合が前回より増加し、「専業主婦」と「その他」の割合が減少しています。



(5) 居住年数〔問 23〕

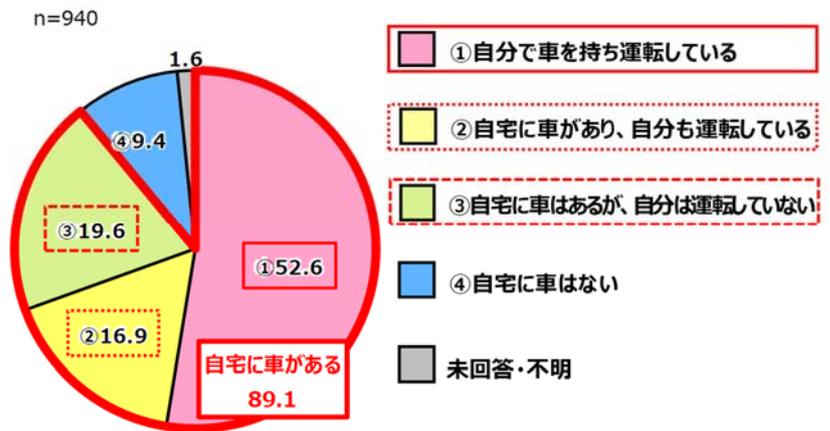
居住年数では「30 年以上」が 44.9%と最も多く、次いで「10 年以上 20 年未満」が 20.0%、「20 年以上 30 年未満」が 16.4%となっています。

上位の 3 つは、前計画策定時のアンケート調査結果と同じですが、「20 年以上」の回答割合が前回より増加しています。



(6) 車の保有状況〔問 24〕

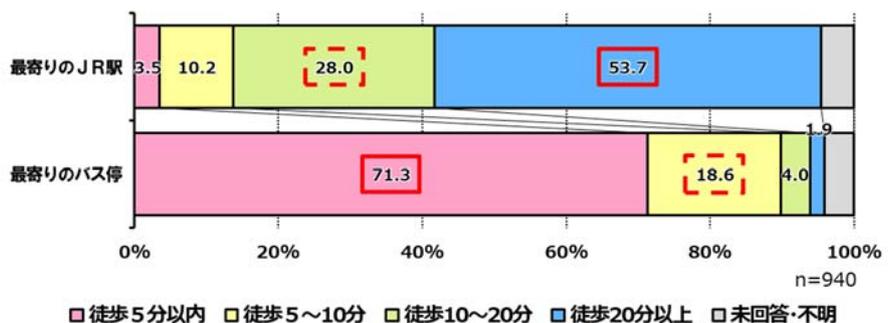
車の保有状況では「自分で車を運転している」が 52.6%と最も多く、次いで「自宅に車はあるが、自分は運転していない」が 19.6%、「自宅に車があり、自分も運転している」が 16.9%となっています。



(7) 最寄りのバス停・JR 駅までの徒歩時間〔問 25〕

最寄りの JR 駅までの徒歩時間では「徒歩 20 分以上」が 53.7%と最も多く、次いで「徒歩 10～20 分」が 28.0%となっています。

最寄りのバス停までの徒歩時間では「徒歩 5 分以内」が 71.3%と過半数を占めており、次いで、「徒歩 5～10 分」が 18.6%となっています。



3. 現在の千歳市のまちづくりについて

(1) まちづくりに関する満足度・重要度（千歳市全体）〔問 1〕

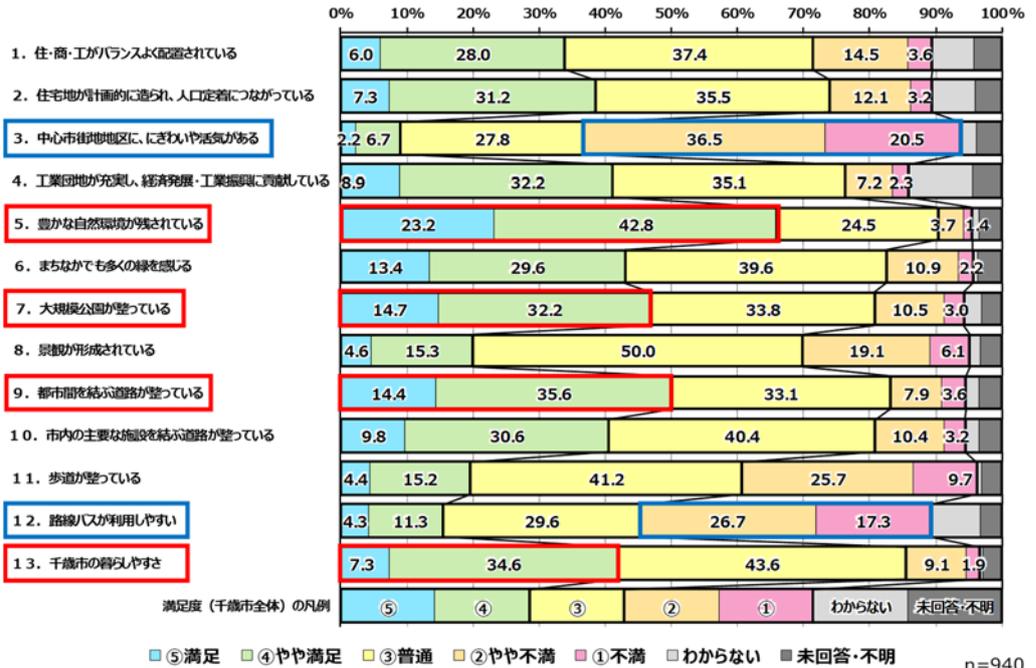
【満足度】

千歳市のまちづくりについて、千歳市全体の満足度では「豊かな自然環境が残されている」は「満足」、「やや満足」と回答した人が 66.0%となっており、次いで「都市間を結ぶ道路が整っている」が 50.0%、となっています。

一方、「中心市街地地区に、にぎわいや活気がある」は「不満」、「やや不満」と回答した人が 57.0%となっており、次いで「路線バスが利用しやすい」が 44.0%となっています。

なお、1～12の項目を踏まえたうえでの「千歳市の暮らしやすさ」については「満足」、「やや満足」と回答した人が 41.9%となっています。

前計画策定時のアンケート調査結果と似たような傾向を示しており、「暮らしやすさ」の満足度は増加しています。

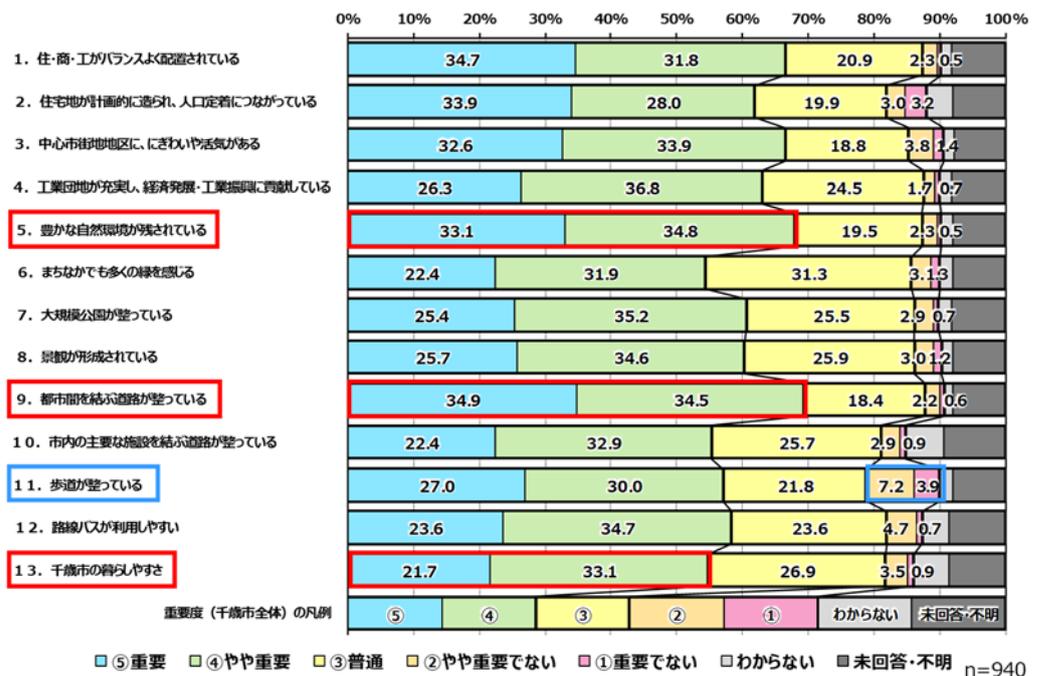


【重要度】

千歳市全体の重要度では、「都市間を結ぶ道路が整っている」は「重要」、「やや重要」と回答した人が 69.4%と最も多くなっており、次いで「豊かな自然環境が残されている」が 67.9%となっています。

全項目で「重要」、「やや重要」と回答した人が 50%を超えておりますが、「歩道が整っている」は「重要でない」、「やや重要でない」と回答した人が 11.1%となっています。

なお、1～12の項目を踏まえたうえでの「千歳市の暮らしやすさ」については重要、やや重要を合わせて 54.8%となっています。



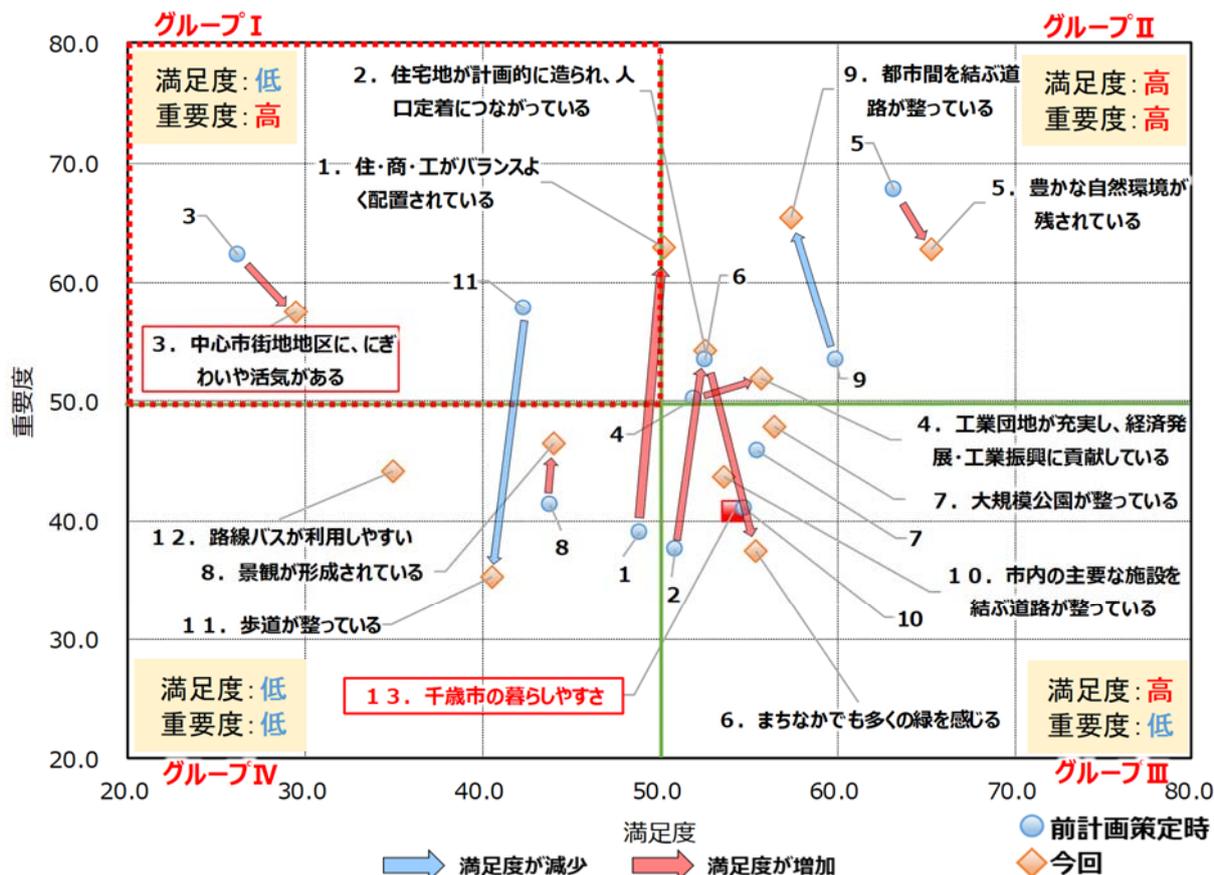
【重要度と満足度のクロス分析】

重要度と満足度について、満足又は重要を「2点」、やや満足又はやや重要を「1点」、普通を「0点」、やや不満又はやや重要でないを「-1点」、不満又は重要でないを「-2点」として点数化して、平均値（加重平均）を算出しました。

さらに、算出した各項目の重要度と満足度の平均値について、50ポイントを中央値とする「偏差値」を算出し、全体のバランスを標準化しました。

「満足度が低く、重要度が高い」グループに含まれる項目が、アンケート結果から導き出される取り組むべき内容となります。

千歳市全体の満足度と重要度の偏差値を散布図に示すと、以下のような分布となります。



- ◆ 満足度と重要度の偏差値は4つのグループに分類されます。
- ◆ グループⅠは、満足度が低く、重要度が高い範囲となるため、アンケート回答者の評価が低く、優先的に改善していくべき項目と考えられます。
- ◆ グループⅡは、満足度が高く、重要度が高い範囲となるため、アンケート回答者の評価が高く、引き続き優先的に維持していくべき項目と考えられます。
- ◆ グループⅢは、満足度が高く、重要度が低い範囲となるため、グループⅡほどではないが維持していくべき項目と考えられます。
- ◆ グループⅣは、満足度が低く、重要度が低い範囲となるため、グループⅠほどではないが改善していくべき項目と考えられます。

満足度が高く、重要度が高い項目（グループⅡ）は「都市間を結ぶ道路が整っている」、「豊かな自然環境が残されている」などとなっています。

一方、満足度が低く、重要度が高い項目（グループⅠ）は「中心市街地地区に、にぎわいや活気がある」などとなっています。

前計画策定時のアンケート調査結果と比較すると、「住・商・工がバランスよく配置されている」と「住宅地が計画的に造られ、人口定着につながっている」が「グループⅣ」から「グループⅡ」に、「まちなかでも多くの緑を感じる」が「グループⅡ」から「グループⅢ」に移動しています。

また、「歩道が整っている」は、「グループⅠ」から「グループⅣ」に移動しています。

それ以外の項目は、同じグループ内での移動となっています。

(2) まちづくりに関する満足度・重要度（お住まいの地域）〔問1〕

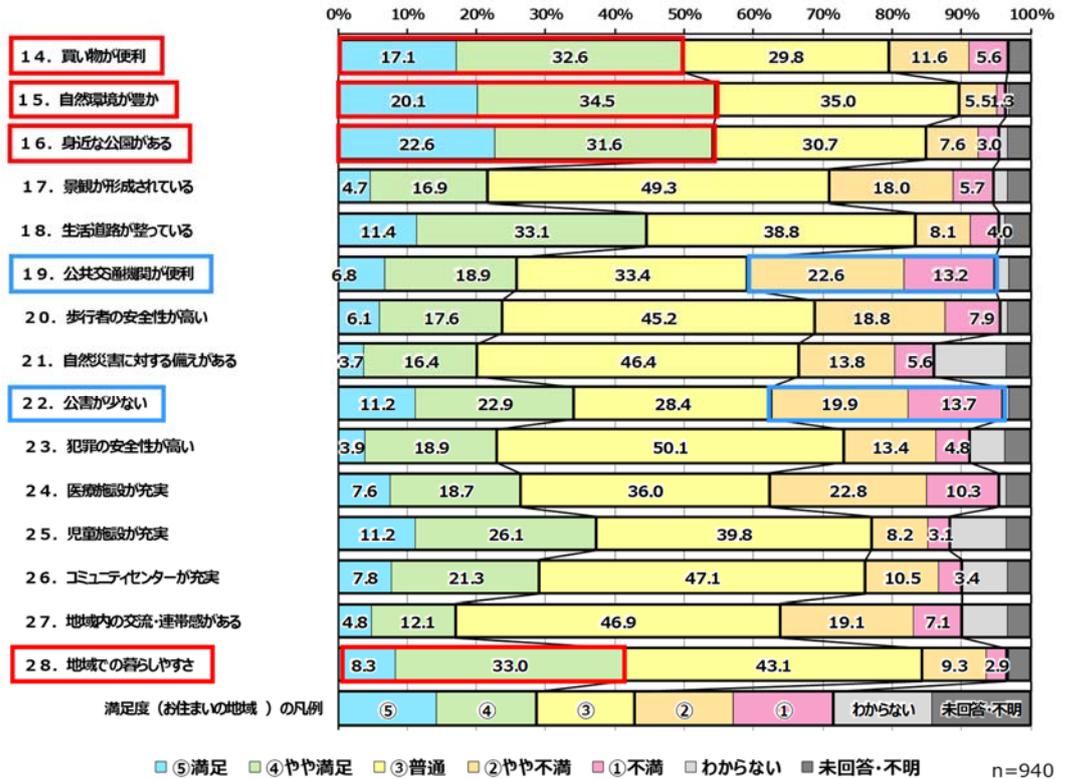
【満足度】

お住まいの地域全体の満足度では「自然環境が豊か」は「満足」、「やや満足」と回答した人が54.6%となっており、次いで「身近な公園がある」が54.2%、「買い物が便利」が49.7%となります。

一方、「公共交通機関が便利」は「不満」、「やや不満」と回答した人が35.8%となっており、次いで「公害が少ない」が33.6%となります。

なお、14~27の項目を踏まえたうえでの「地域での暮らしやすさ」については「満足」、「やや満足」と回答した人を合わせて41.3%となっています。

前計画策定時のアンケート調査結果と似たような傾向を示しています。

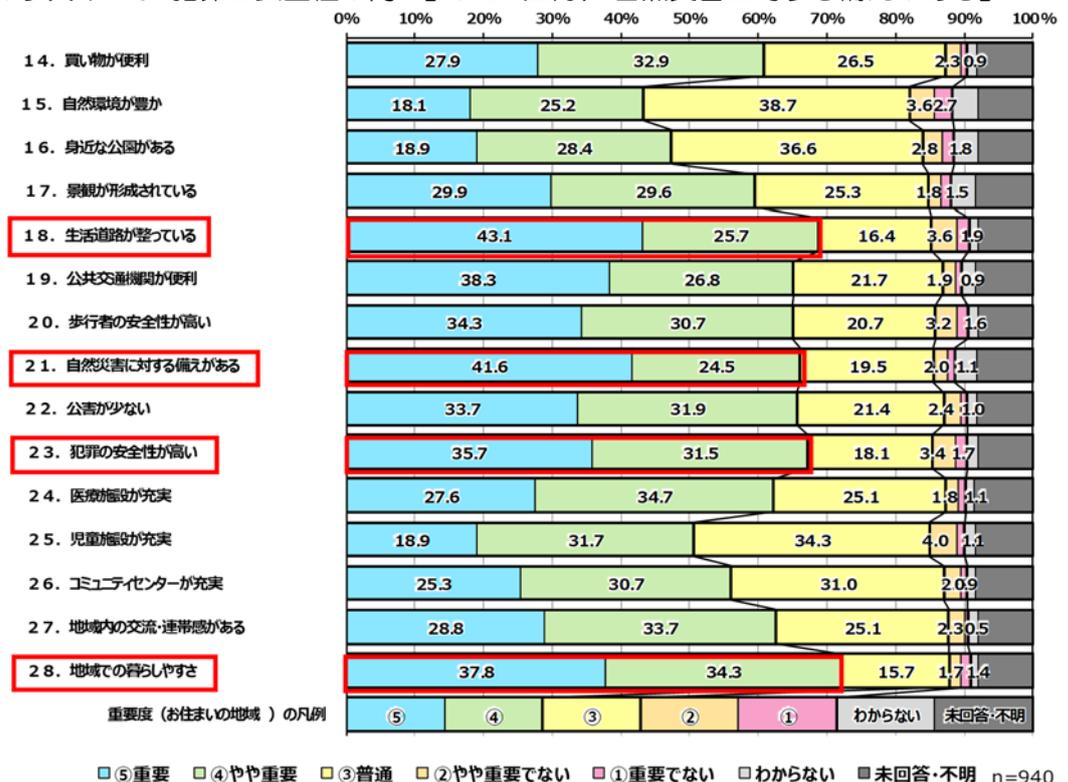


【重要度】

お住まいの地域全体の重要度では「生活道路が整っている」は「重要」、「やや重要」と回答した人が68.8%となっており、次いで「犯罪の安全性が高い」が67.2%、「自然災害に対する備えがある」が66.1%となります。

なお、14~27の項目を踏まえたうえでの「地域での暮らしやすさ」については「重要」、「やや重要」と回答した人が72.1%となっています。

前計画策定時のアンケート調査結果と似たような傾向を示していますが、「買い物便利」と「医療施設が充実」の割合が減少しています。

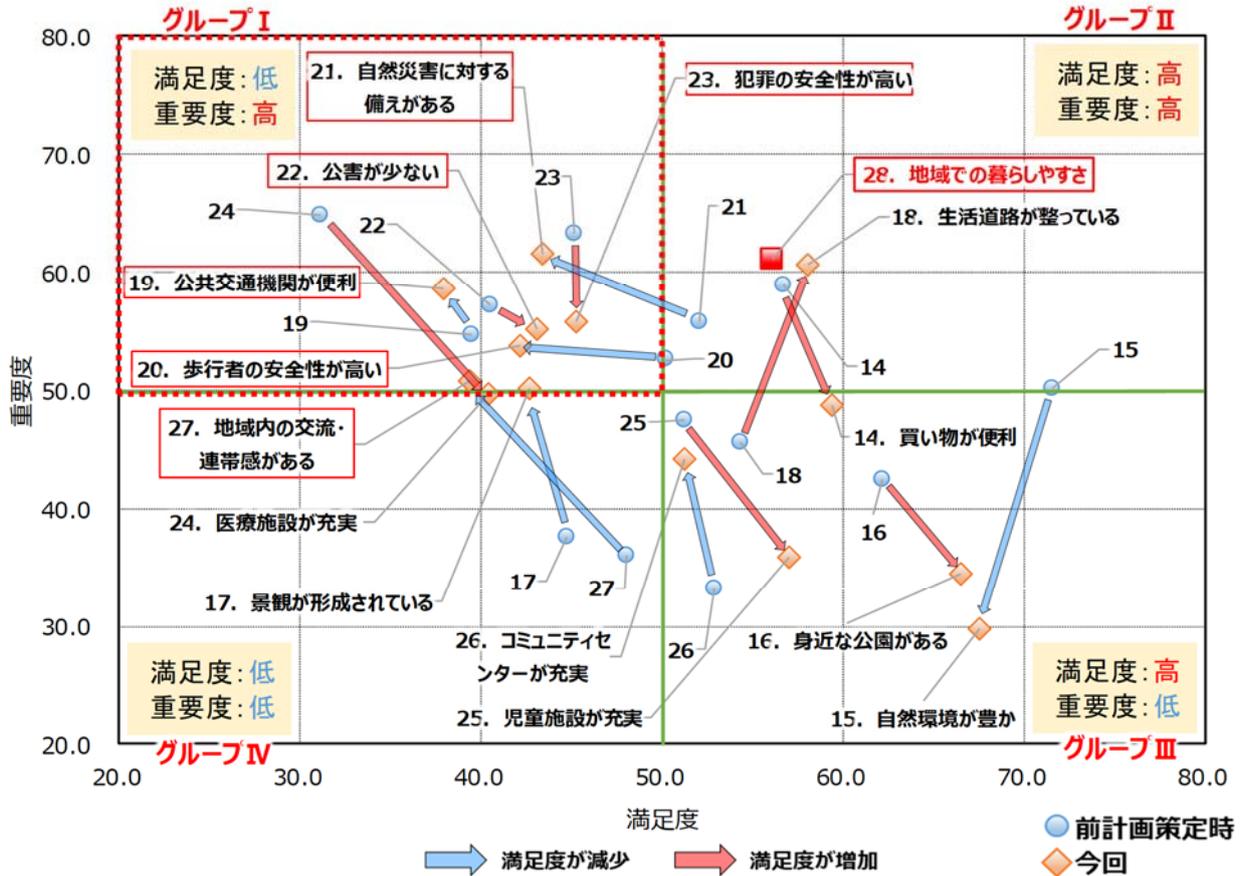


【重要度と満足度のクロス分析】

重要度と満足度について、満足又は重要を「2点」、やや満足又はやや重要を「1点」、普通を「0点」、やや不満又はやや重要でないを「-1点」、不満又は重要でないを「-2点」として点数化して、平均値（加重平均）を算出しました。

さらに、算出した各項目の重要度と満足度の平均値について、50ポイントを中央値とする「偏差値」を算出し、全体のバランスを標準化しました。

お住まいの地域全体の満足度と重要度を散布図に示すと、以下のような分布となります。



満足度が高く、重要度が高い項目（グループⅡ）は「生活道路が整っている」、「地域での暮らしやすさ」となっています。

一方、満足度が低く、重要度が高い項目（グループⅠ）は「公共交通機関が便利」、「自然災害に対する備えがある」、「歩行者の安全性が高い」、「公害が少ない」、「犯罪の安全性が高い」となっています。

グループⅠの項目について、前計画策定時のアンケート調査結果と比較すると、「歩行者の安全性が高い」と「自然災害に対する備えがある」が、「グループⅡ」から「グループⅠ」に移動しています。

また、「買い物が便利」と「自然環境が豊か」は、「グループⅡ」から「グループⅢ」に、「景観が形成されている」と「地域内の交流・連帯感がある」は、「グループⅣ」から「グループⅠ」に、「医療施設が充実」は、「グループⅠ」から「グループⅣ」に移動しています。

それ以外の項目は、同じグループ内での移動となっています。

〔3〕千歳市全体とお住まいの地域の「特に満足なところ」「特に不満なところ」〔問2〕

【特に満足な（良いと思う）ところ】

千歳市のまちづくりについて、約半数の446名が、満足な（良いと思う）内容を記載しています。

記載の内容ごとに10個の大項目で整理すると、「その他」を除き「自然・景観」に関する内容が最も多く154件、以下、「道路・交通」の132件、「商業地」と「公園・緑地」の56件と続きます。

| 項目 | 詳細 | 意見数 |
|---------|---|-----|
| 1.住宅地 | 住宅全般について | 8 |
| 2.商業地 | 商業全般について（55）、業種・業態等について（1） | 56 |
| 3.工業地 | 工業全般について | 7 |
| 4.自然・景観 | 自然等全般について（135）、景観等全般について（8）、千歳川等について（7）、支笏湖等について（2）、その他の事項について（2） | 154 |
| 5.道路・交通 | 交通全般について（37）、空港について（42）、道路について（27）、公共交通について（26） | 132 |
| 6.公園・緑地 | 公園等全般について（42）、青葉公園について（14） | 56 |
| 7.公共施設 | 公共施設等全般について（14）、医療について（13） | 27 |
| 8.市民参加 | 市民参加全般について（3）、イベントについて（5） | 8 |
| 9.防災 | 防災全般について | 2 |
| 10.その他 | まちづくり全般について（87）、その他の事項について（38） | 125 |

【特に不満な（悪いと思う）ところ】

千歳市のまちづくりについて、約6割の548名が、不満な（悪いと思う）内容を記載しています。

記載内容ごとに9個の大項目で整理すると「その他」を除き、「道路・交通」に関する内容が最も多く300件、以下、「自然・景観」の125件、「商業地」の112件と続きます。

| 項目 | 詳細 | 意見数 |
|---------|---|-----|
| 1.住宅地 | 住宅全般について | 3 |
| 2.商業地 | 中心市街地について（38）、業種・業態等について（73）、その他の事項について（1） | 112 |
| 3.自然・景観 | 景観等全般について（10）、自然の減少等について（8）、駅周辺について（12）、騒音について（68）、維持管理について（14）、ごみ等について（5）、悪臭について（8） | 125 |
| 4.道路・交通 | 渋滞等について（4）、公共交通について（156）、歩行者等の安全性について（54）、生活道路の整備について（10）、維持管理について（23）、除排雪について（26）、標識や信号等について（16）、個別の事項について（11） | 300 |
| 5.公園・緑地 | 公園等の活用について（1）、公園等の不足について（3）、維持管理について（3）、個別の事項について（4） | 11 |
| 6.公共施設 | 利便性向上や有効利用について（15）、不足施設について（15）、医療施設について（44） | 74 |
| 7.市民参加 | 町内会組織等について（1）、市民参加全般について（1） | 2 |
| 8.防災 | 防災全般について | 2 |
| 9.その他 | まちづくり全般について（10）、その他の事項について（51） | 61 |

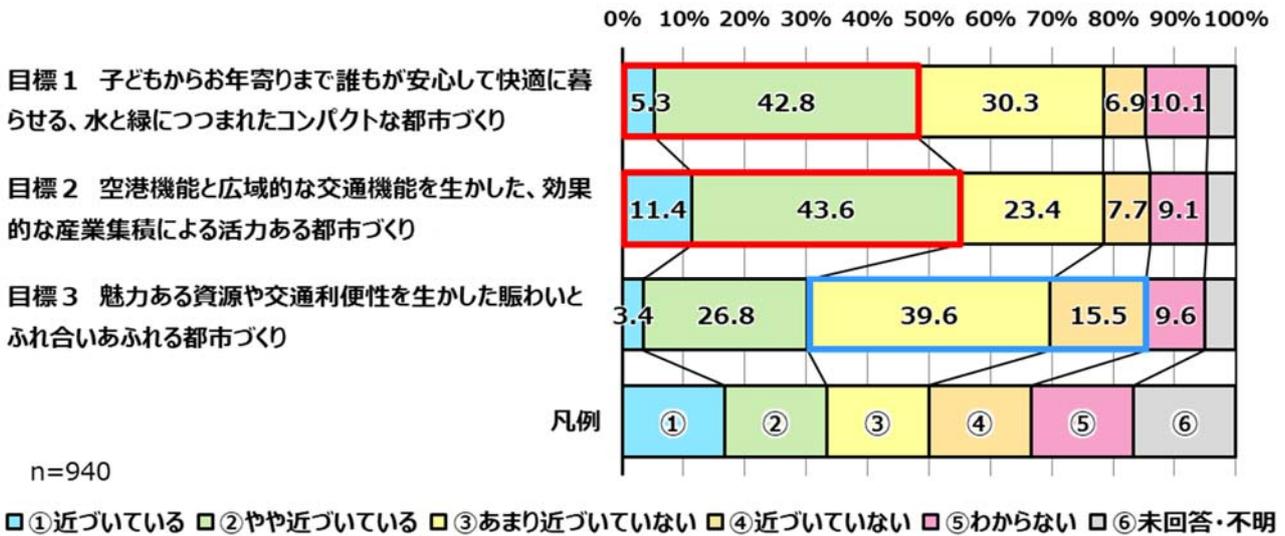
(4)「千歳市第2期都市計画マスタープラン」に掲げた目標に近づいているか〔問3〕

現行の「千歳市第2期都市計画マスタープラン」に掲げた3つの目標について、「目標1」は「近づいている」と「やや近づいている」と回答した人が約5割となっています。

「目標2」は「近づいている」と「やや近づいている」と回答した人が過半数を超えています。

「目標3」は目標1、2と異なり、「近づいていない」「あまり近づいていない」と回答した人が過半数を占めています。

千歳市は、コンパクトで活力のある都市づくりに近づいていると認識している人が多いものの、賑わいとふれ合いあふれる都市づくりについては、近づいていないと感じている人が多く、目標3の取り組みに課題がうかがえます。

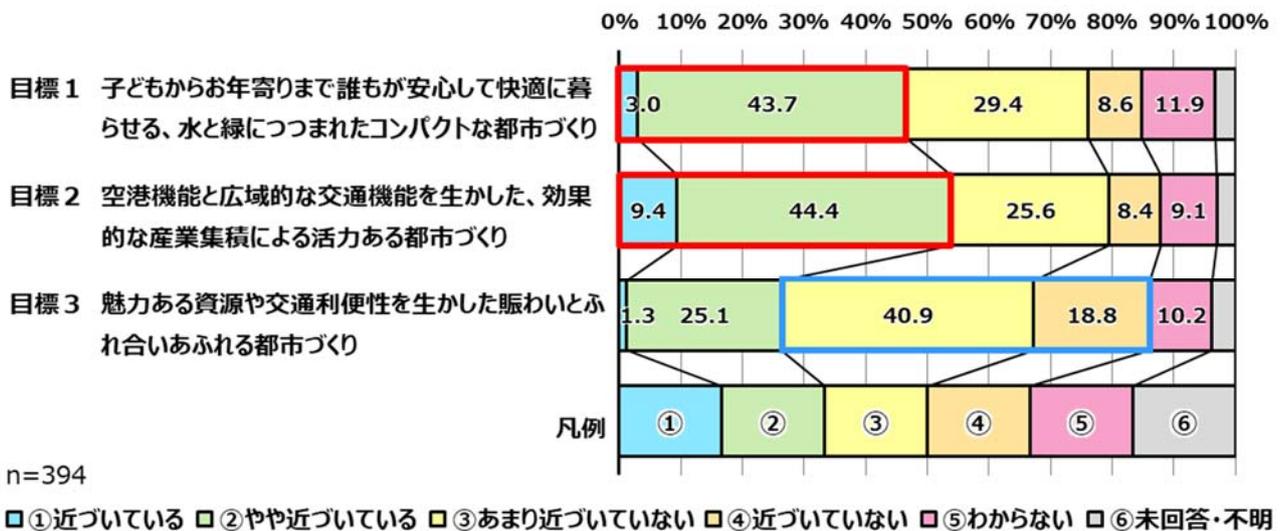


前計画策定時に20代から40歳代であった「30～50代」の結果を見ると、「目標1」と「目標2」は、「近づいている」の割合が全体の割合よりも低く、「近づいていない」の割合が全体の割合よりも高くなっています。

「目標3」は、「近づいていない」「あまり近づいていない」の割合が全体の割合よりも高くなっています。

「30～50代」は、全体よりも厳しい結果となっています。

【30～50代】

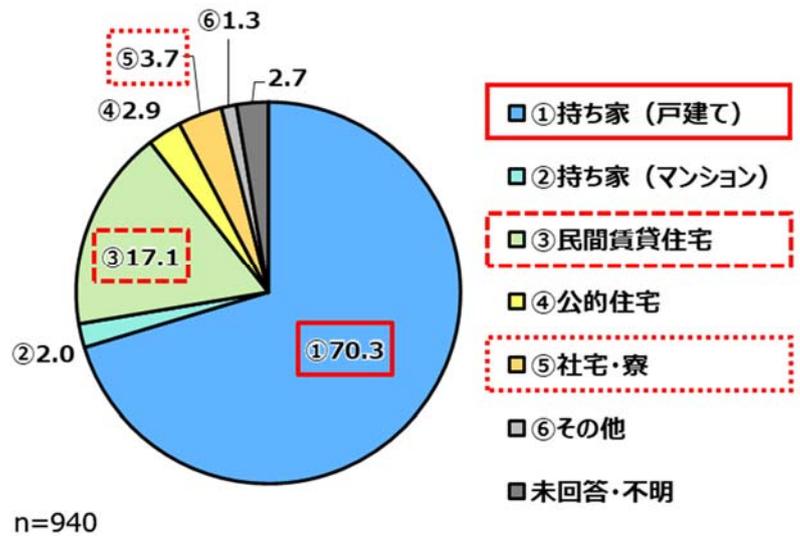


4. 現在のお住まいと今後の居留意向

(1) 現在の住まいの形式〔問4 a〕

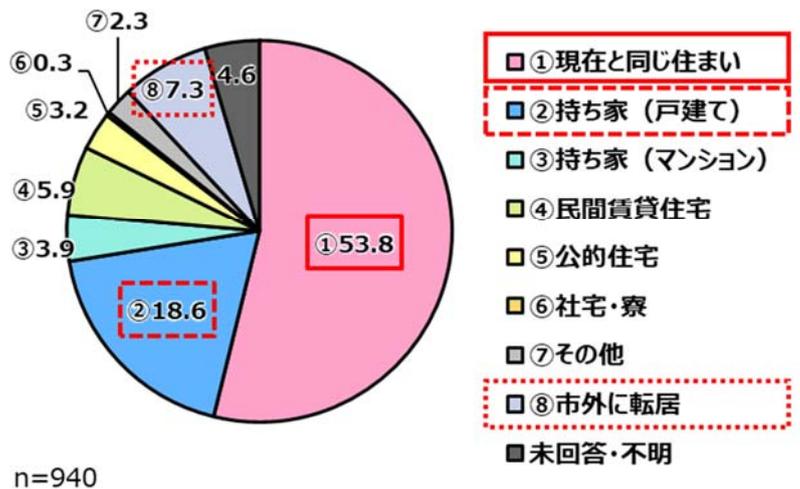
現在の住まいの形式では「持ち家（戸建て）」が70.3%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が17.1%、「社宅・寮」が3.7%となっています。

前計画策定時のアンケート調査と比較すると、「持ち家（戸建て）」「持ち家（マンション）」の割合は、ほぼ同じです。



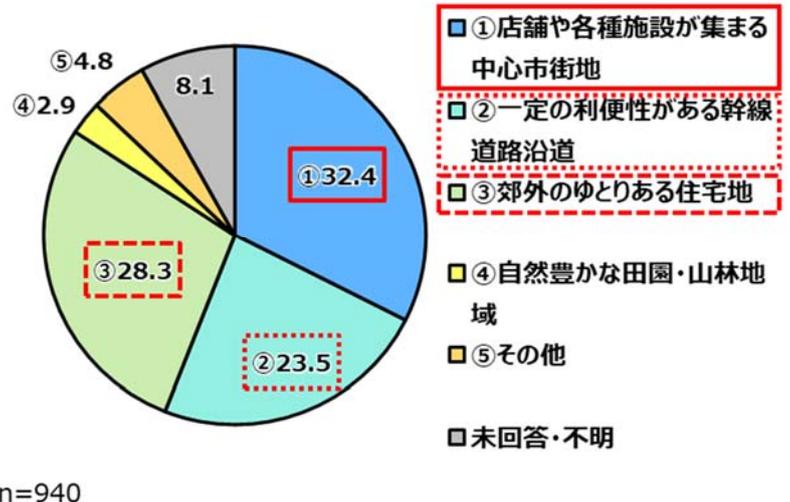
(2) 10～20年後の住まい〔問4 b〕

10～20年後のお住いでは「現在と同じ住まい」が53.8%と最も多く、次いで「持ち家（戸建て）」が18.6%、「市外に転居」が7.3%となっています。



(3) 10～20年後の住まいとして希望する立地環境〔問4 c〕

10～20年後の住まいとして希望する立地環境では「店舗や各種施設が集まる中心市街地」が32.4%と最も多く、次いで「郊外のゆとりある住宅地」が28.3%、「一定の利便性がある幹線道路沿道」が23.5%となっています。

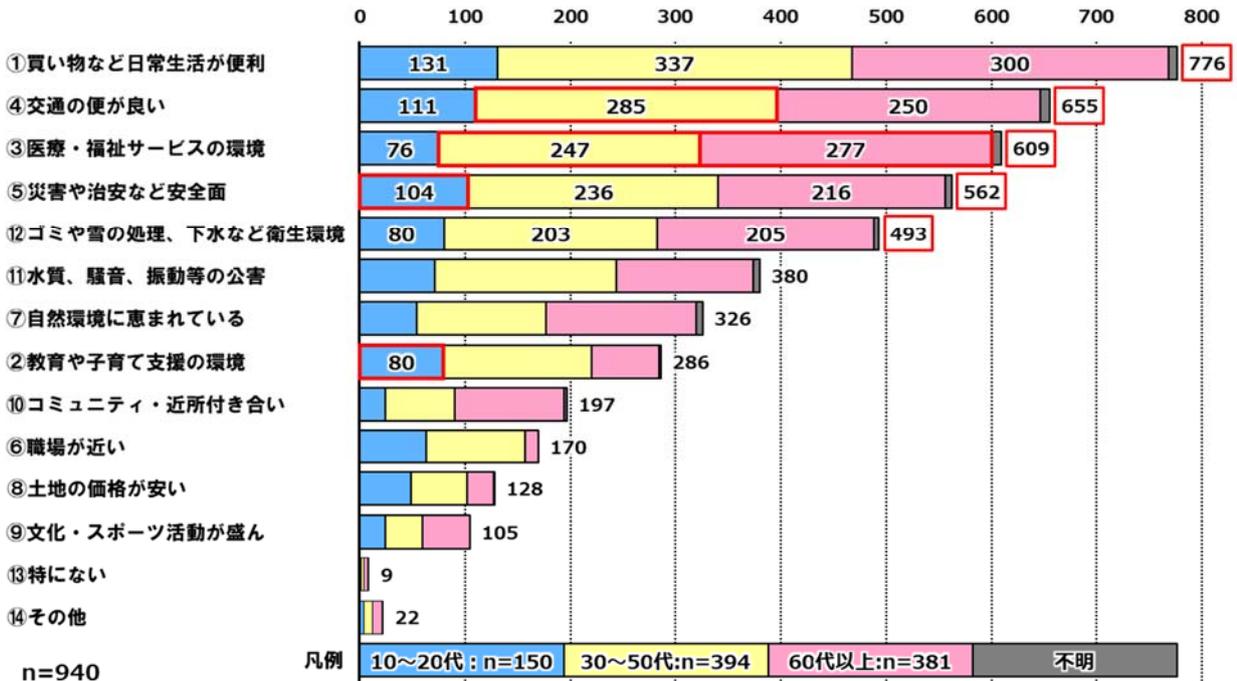


(4) 住まい環境で重視したいこと〔問5〕

住まい環境で重視したいことでは「買い物など日常生活が便利」が776名と最も多く、次いで「交通の便が良い」、「医療・福祉サービスの環境」、「災害や治安などの安全面」、「ゴミや雪の処理、下水などの衛生環境」となっており、半数以上の人がこの項目を選択しています。

とりわけ、「買い物など日常生活が便利」は、約8割の人が選択しています。

各年代、概ね同じ項目を選択した結果となっており、「買い物など日常生活が便利」が最も多くなっていますが、「10～20代」では「災害や治安など安全面」、「教育や子育て支援の環境」を選択した割合が、「30歳代以上」では「医療・福祉サービスの環境」を選択した割合が高くなっています。



※値の単位：名

5. 生活利便施設や移動手段の利用実態と今後の見通しについて

(1) 生活利便施設全体の利用頻度〔問6〕

生活利便施設の全体の利用頻度では「食料品」の頻度が高く、週1～2回が55.0%、週3～4回以上が31.4%となっています。

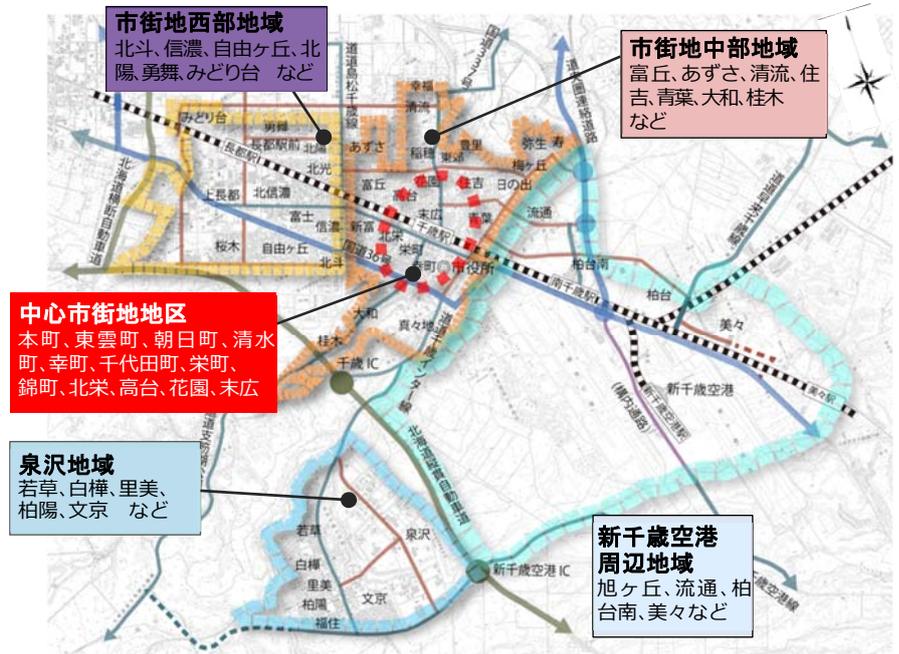
「日用品・日用雑貨」についても「食料品」に次いで頻度が高く、週1回以上でみると48.5%となっています。

一方で、「福祉施設、デイサービス施設等」、「子育て支援施設（保育園・幼稚園含む）」、「集会・コミュニティ施設」の利用頻度が低く、7割以上の方が「利用しない」と回答しています。

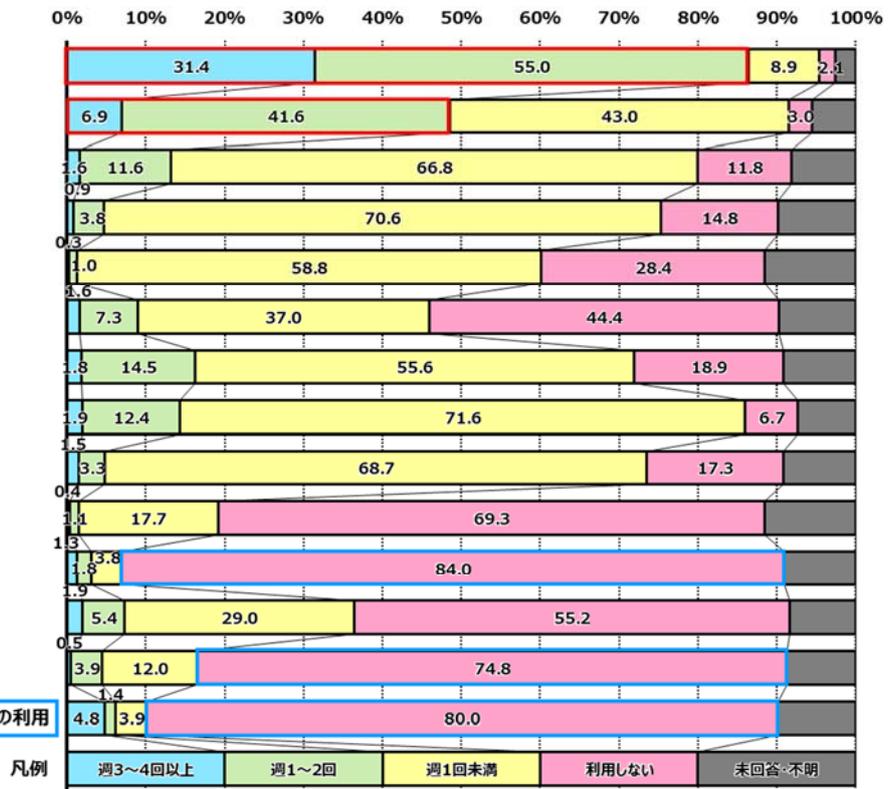
「10～20代」の利用頻度は、全体の利用頻度と概ね同様の傾向となっていますが、「飲食店」の利用が週1回以上で35.3%と比較的高くなっていることが特徴です。

「30～50代」の利用頻度は、全体の利用頻度と概ね同様の結果となっています。

「60代以上」は、全体の利用頻度と大きな変化はありませんが、各施設の利用頻度が全体的に低くなっている傾向があり、外出の低下が見受けられます。



1. 食料品（生鮮・一般）の購入
2. 日用品・日用雑貨の購入
3. 医療品・化粧品の購入
4. 衣料品・服飾品の購入
5. 家具・寝具・家電の購入
6. 娯楽・レジャー施設の利用
7. 飲食店の利用
8. 郵便局・金融機関の利用
9. 医療機関（内科・外科）の利用
10. 医療機関（小児科）の利用
11. 福祉施設、デイサービス施設等の利用
12. 図書館やスポーツ施設の利用
13. 集会・コミュニティ施設の利用
14. 子育て支援施設（保育園・幼稚園含む）の利用



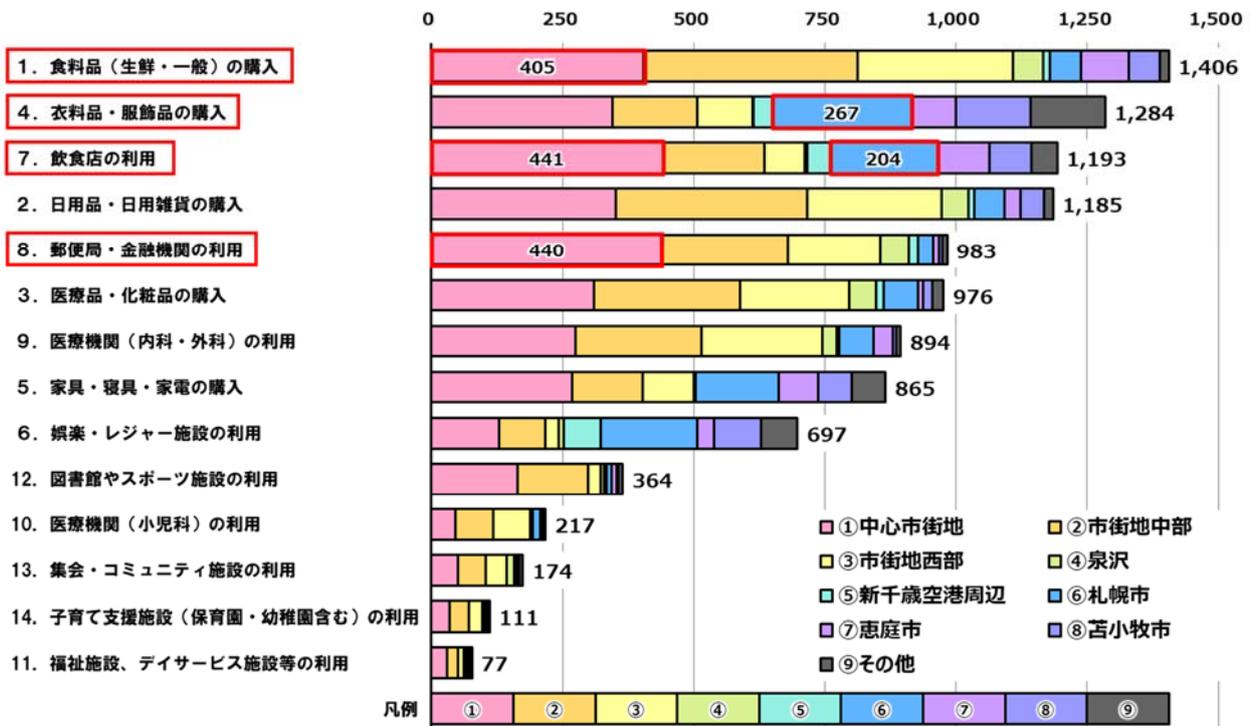
凡例 □ 週3～4回以上 □ 週1～2回 □ 週1回未満 □ 利用しない □ 未回答・不明

n=940

(2) 利用する施設の場所〔問6〕

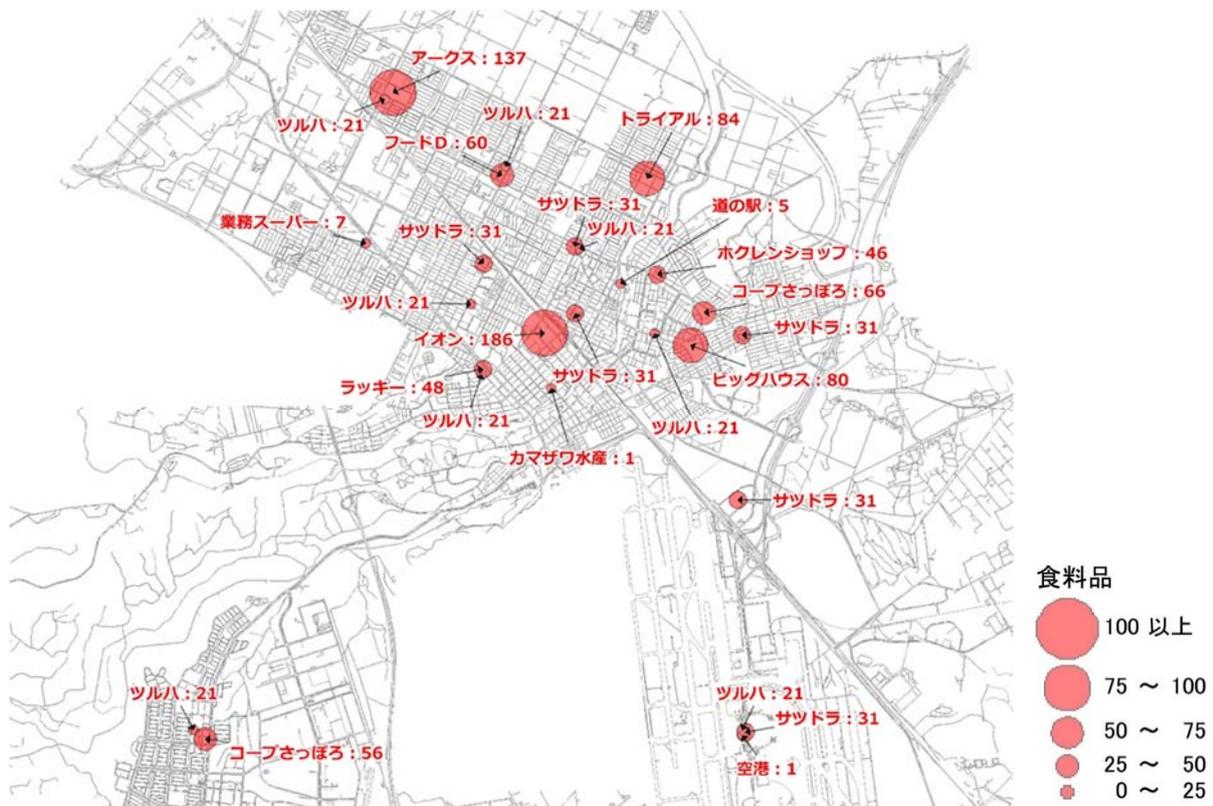
目的別の利用する場所としては、「中心市街地」がいずれも多くなっており、「食料品」「飲食店」「郵便局・金融機関」では400名以上が「中心市街地」と回答しています。そのほか、「市街地中部」についても、いずれの目的でも比較的に利用されています。

「衣料品・服飾品」や「飲食店」に関しては、200名以上が「札幌市」と回答しています。



※値の単位：名

【アンケートに記載された店舗（食料品）の分布図】



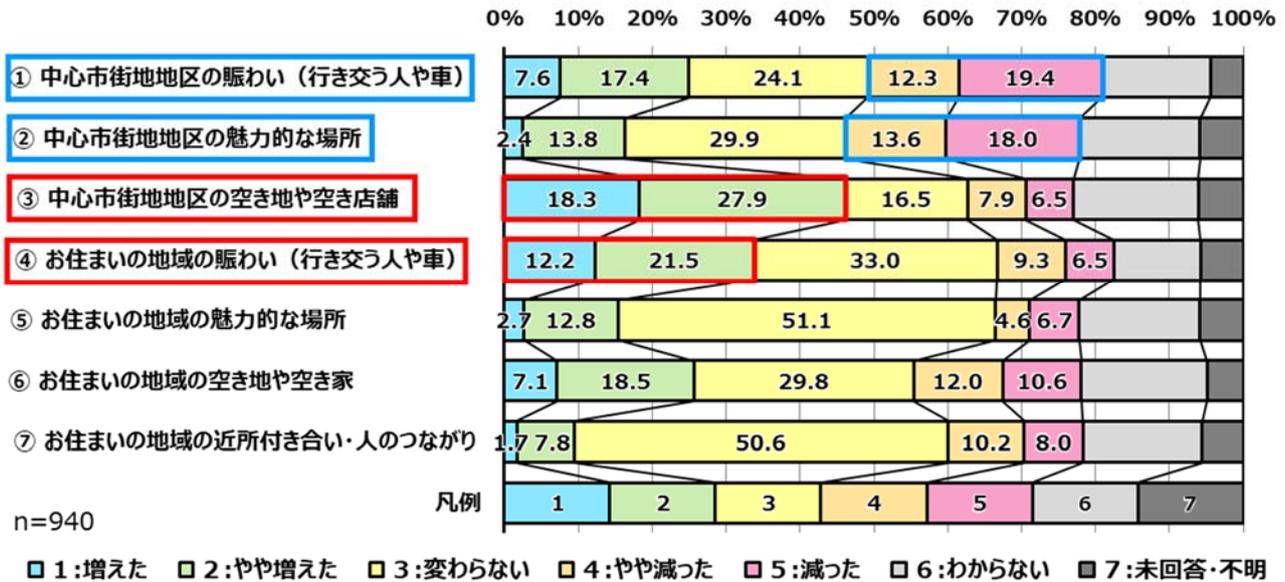
注) 場所が特定できない店舗（ツルハ、サツドラなど）は、全ての店舗に加算しています。

(3) まちの賑やかさや魅力などのイメージ〔問7〕

全体のまちの賑やかさや魅力では、「お住まいの地域の賑わい（行き交う人や車）」は「増えた」、「やや増えた」と回答した人は33.7%となっています。

一方、「中心市街地地区の空き地や空き店舗」は「増えた」、「やや増えた」と回答した人は46.2%となっています。

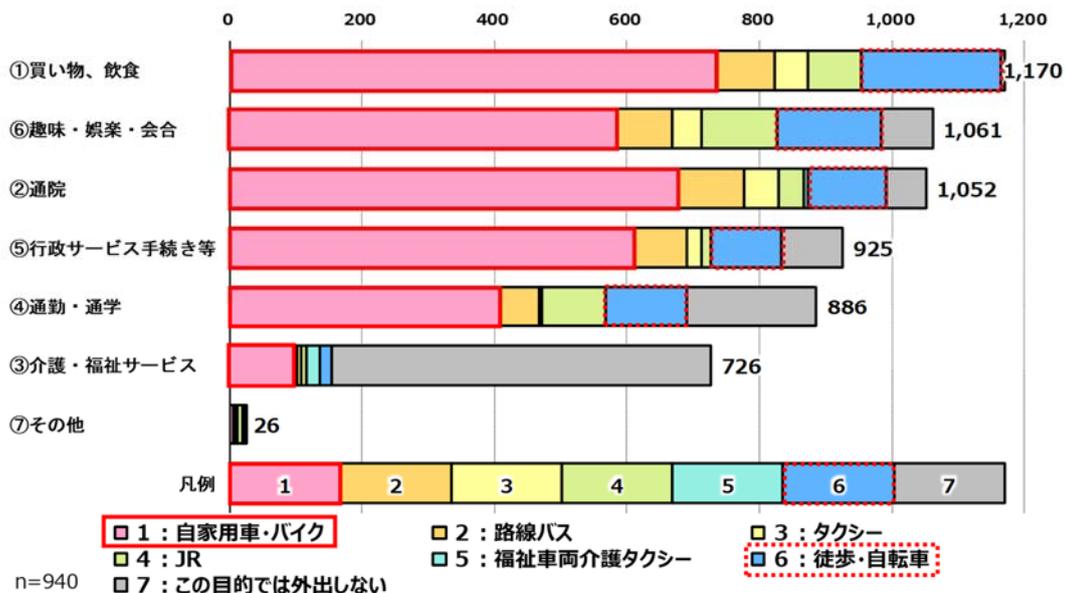
また、「中心市街地地区の賑わい（行き交う人や車）」は「減った」、「やや減った」と回答した人は31.7%となっており、次いで「中心市街地地区の魅力的な場所」が31.6%となっています。



(4) 目的別移動手段〔問8〕

目的別の移動手段では、いずれの目的においても「自家用車・バイク」による移動が多くなっており、次いで徒歩・自転車の移動が多い状況です。

また、路線バスやJRについても一定の利用が見受けられます。



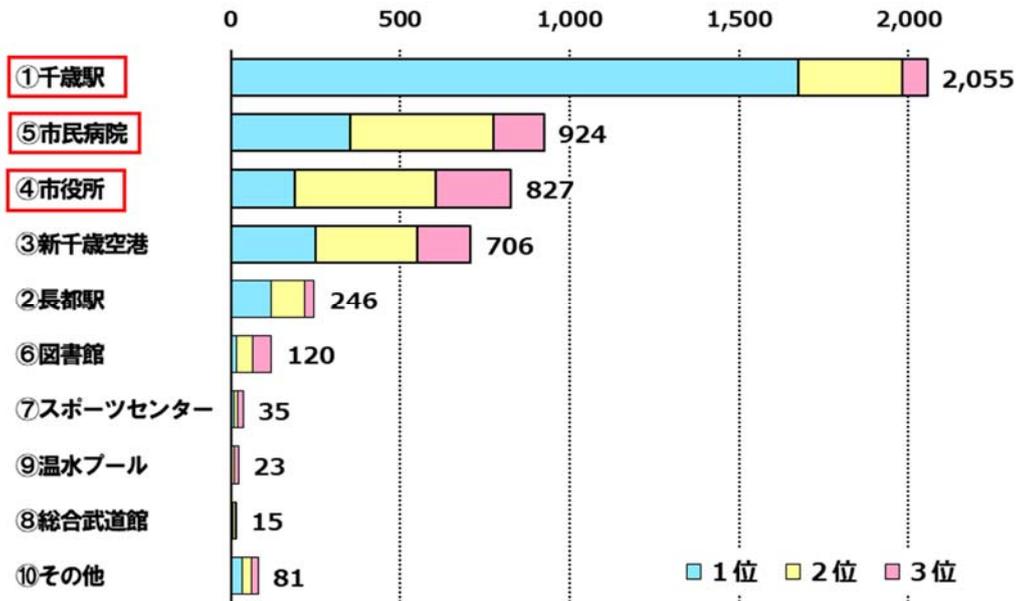
※値の単位：名

(5) 路線バスを利用する場合、目的地として重要と思う順〔問9〕

路線バスを利用する場合の目的地について、1位～3位の順位で回答してもらいました。

1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして集計したところ、路線バスの目的地では「千歳駅」が2,055ポイントと最も多く、次いで「市民病院」、「市役所」、「新千歳空港」となります。

交通結節点へのアクセスや病院・市役所への移動手段としてバスが使われています。

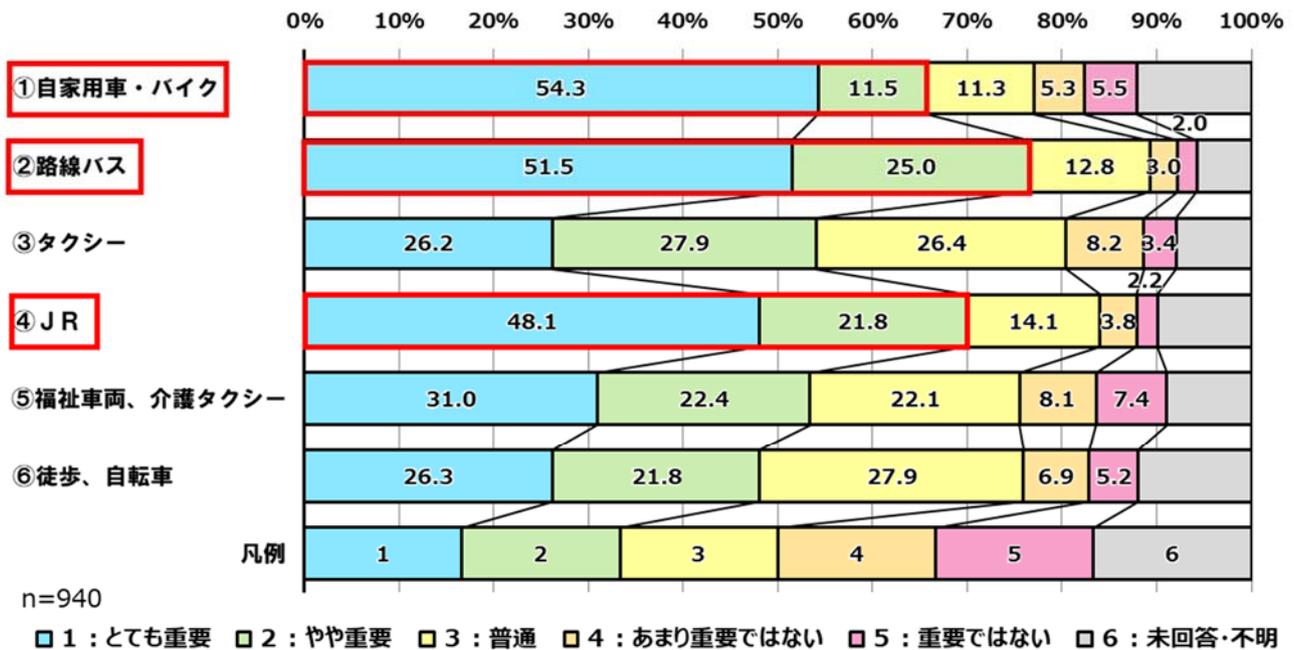


※値の単位：ポイント

(6) 将来の移動手段の重要度〔問10〕

将来の移動手段の重要度では「路線バス」が「とても重要」、「やや重要」と回答した人は76.5%と最も高くなっており、次いで「JR」が69.9%であり、公共交通に対する重要性が高くなっています。

また、とても重要に着目すると「自家用車・バイク」が最も高く54.3%となっています。



6. 将来(10年～20年後)の持続可能なまちづくりについて

(1) 土地利用の取り組み〔問11〕

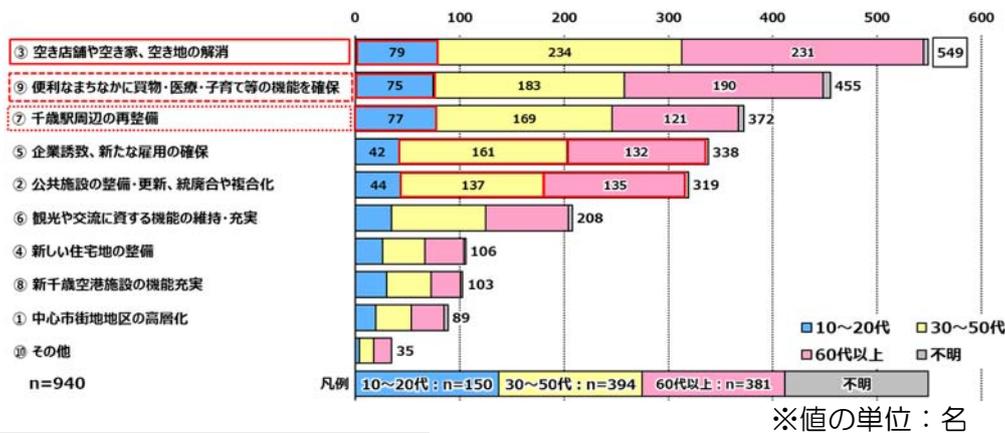
土地利用としては、「空き店舗、空き地の解消」が力を入れるべき取り組みとして最も多い回答となっており、次いで「便利なまちなかに買物・医療・子育て等の機能を確保」、「千歳駅周辺の再整備」となっています。

「10～20代」では、「空き店舗、空き地の解消」、「便利なまちなかに買物・医療・子育て等の機能を確保」、「千歳駅周辺の再整備」の3つが力を入れるべき取り組みとして同等程度の回答となっています。

「30～50代」では、全体集計と概ね同様の傾向ですが、「公共施設の整備・更新、統廃合や複合化」、「企業誘致、新たな雇用の確保」の回答割合も高く、3割以上の人を選択しています。

「60代以上」では、「空き店舗、空き地の解消」、「便利なまちなかに買物・医療・子育て等の機能を確保」の優先度は高くなっていますが、「千歳駅周辺の再整備」よりも「公共施設の整備・更新、統廃合や複合化」、「企業誘致、新たな雇用の確保」の優先度が比較的高くなっています。

【土地利用について、力を入れるべきと思う取り組み】



(2) 道路・交通施設の取り組み〔問12〕

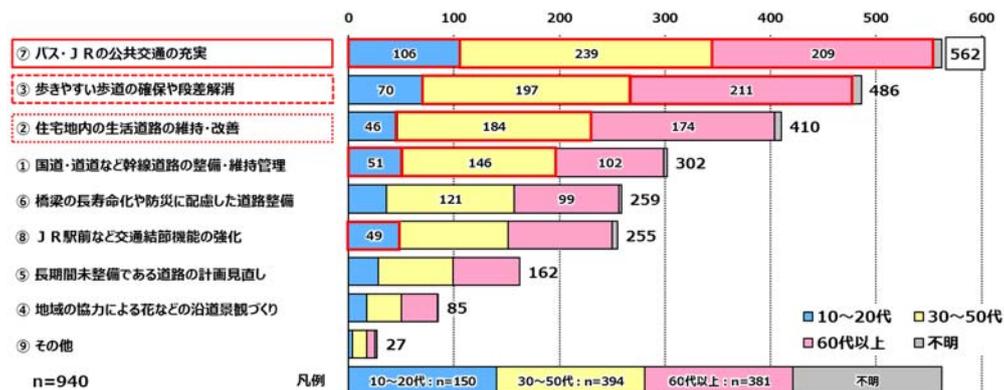
道路・交通施設の整備・維持管理としては、「バス・JRの公共交通の充実」が力を入れるべき取り組みとして最も多い回答となっており、次いで「歩きやすい歩道の確保や段差解消」、「住宅地内の生活道路の維持・改善」となっています。

「10～20代」では、「バス・JRの公共交通の充実」が他の取り組みと比較して非常に多くの回答を得ており、その重要性がうかがえます。さらに、「JR駅前など交通結節点機能の強化」に対しても優先度が高く、公共交通への取り組みに対する意識が高いと考えられます。

「30～50代」では、「バス・JRの公共交通の充実」、「歩きやすい歩道の確保や段差解消」「住宅地内の生活道路の維持・改善」の順に優先度が高くなっており、全体集計と概ね同様の結果となっていますが、「国道・道道などの幹線道路の維持・管理」や「橋梁の長寿命化や防災に配慮した道路整備」の回答割合も高く、3割以上の人を選択しています。

「60代以上」では、「歩きやすい歩道の確保や段差解消」、「バス・JRの公共交通の充実」が同等程度で多くの回答を得ており、交通弱者に対する移動支援の優先度が高くなっています。

【道路・交通施設の整備・維持管理について、力を入れるべきと思う取り組み】



(3) 公園・緑地の取り組み〔問 13〕

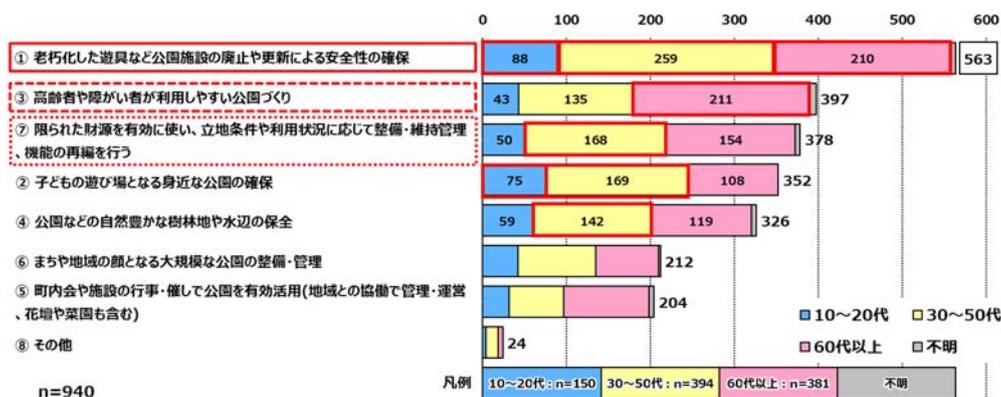
公園・緑地の整備・維持管理としては、「老朽化した遊具など公園施設の廃止や更新による安全の確保」が力を入れるべき取り組みとして最も多い回答となっており、他の取り組みと比較して非常に多い状況です。次いで「高齢者や障がい者が利用しやすい公園づくり」、「限られた財源を有効に使い、立地条件や利用状況に応じて整備・維持管理、機能の再編を行う」となっています。

「10～20代」では、全体集計と同様に「老朽化した遊具など公園施設の廃止や更新による安全の確保」が最も多い回答となっています。一方で、2番目として「子どもの遊び場となる身近な公園の確保」、3番目として「公園などの自然豊かな森林地や水辺の確保」となっており、子育てを中心とする取り組みの優先度が高い傾向となっています。

「30～50代」では、全体集計と同様に「老朽化した遊具など公園施設の廃止や更新による安全の確保」が最も多い回答となっています。一方で、2番目として「子どもの遊び場となる身近な公園の確保」、3番目として「限られた財源を有効に使い、立地条件や利用状況に応じて整備・維持管理、機能の再編を行う」となっています。

「60代以上」では、「高齢者や障がい者が利用しやすい公園づくり」「老朽化した遊具など公園施設の廃止や更新による安全の確保」が同等程度で多くの回答を得ており、高齢者や障がい者に配慮した維持管理の重要性がうかがえます。

【公園・緑地の整備・維持管理について、力を入れるべきと思う取り組み】



※値の単位：名

(4) 景観まちづくりの取り組み〔問 14〕

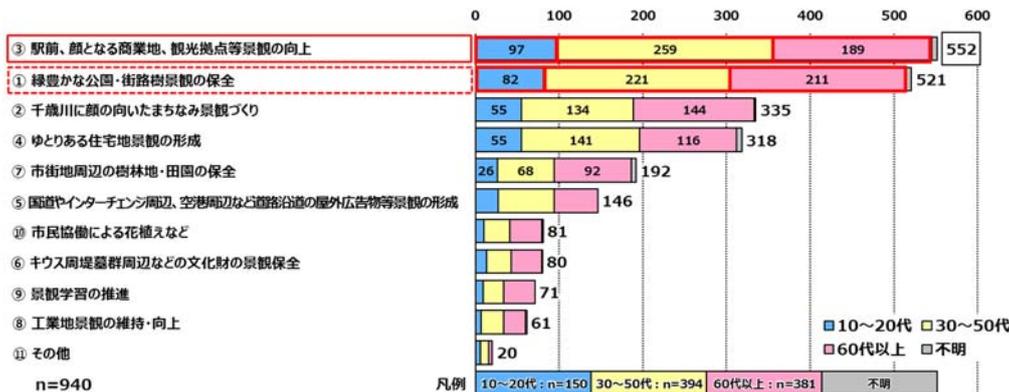
景観まちづくりとしては、「駅前、顔となる商業地、観光拠点等景観の向上」、「緑豊かな公園・街路樹景観の保全」の2つが力を入れるべき取り組みとして多くの回答を得ています。

また、「千歳川に顔を向いたまちなみ景観づくり」、「ゆとりある住宅地景観の形成」についても比較的多い回答となっています。

「10～20代」と「30～50代」では、全体集計と概ね同様の結果となっており、「駅前、顔となる商業地、観光拠点等景観の向上」が最も多く、次いで「緑豊かな公園・街路樹景観の保全」となっています。

「60代以上」では、「緑豊かな公園・街路樹景観の保全」が最も多く、次いで「駅前、顔となる商業地、観光拠点等景観の向上」となっており、全体集計と比較すると公園や街路樹の景観に対する意識が高い状況です。

【景観まちづくりで、力を入れるべきと思う取り組み】



※値の単位：名

(5) 防災まちづくりの取り組み〔問 15〕

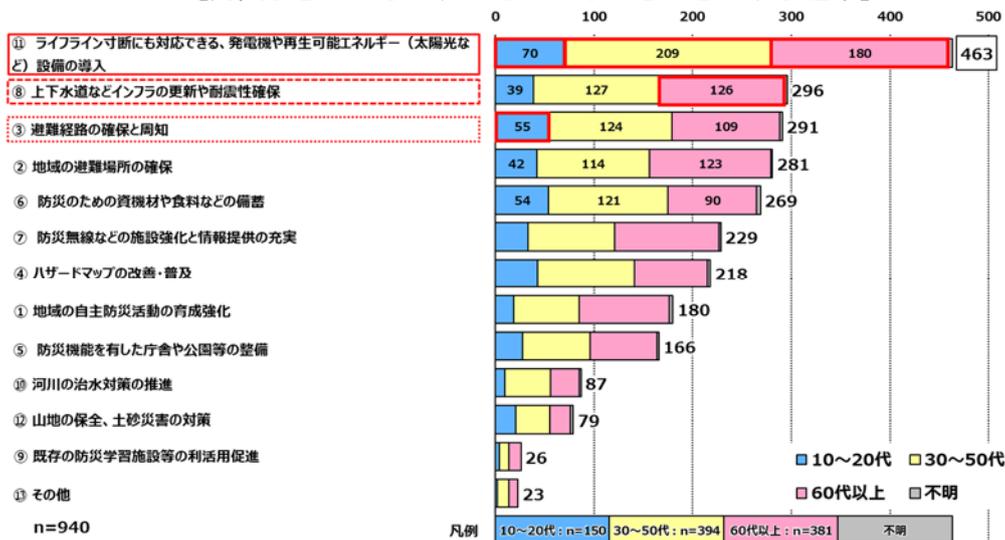
防災まちづくりとしては、「ライフライン寸断にも対応できる、発電機や再生可能エネルギー設備の導入」が力を入れるべき取り組みとして多くの回答を得ています。次いで、「上下水道などインフラの更新や耐震性確保」、「避難経路の確保と周知」の順に比較的多い回答となっています。

「10～20代」では、全体集計と同様に「ライフライン寸断にも対応できる、発電機や再生可能エネルギー設備の導入」が最も多くの回答を得ております。次いで、「避難経路の確保と周知」、「防災のための資機材や食料などの備蓄」に対する回答が多く3割以上の人が選択しており、災害発生時の避難に対する意識が高い状況がうかがえます。

「30～50代」では、全体集計と同様に「ライフライン寸断にも対応できる、発電機や再生可能エネルギー設備の導入」が最も多くの回答を得ており、そのほかの取り組みの優先度も全体集計と同様です。

「60代以上」では、全体集計と同様に「ライフライン寸断にも対応できる、発電機や再生可能エネルギー設備の導入」が最も多くの回答を得ております。次いで、「上下水道などインフラの更新や耐震性確保」、「地域の避難場所の確保」に対する回答が多くなっています。

【防災まちづくりで、力を入れるべきと思う取り組み】



※値の単位：名

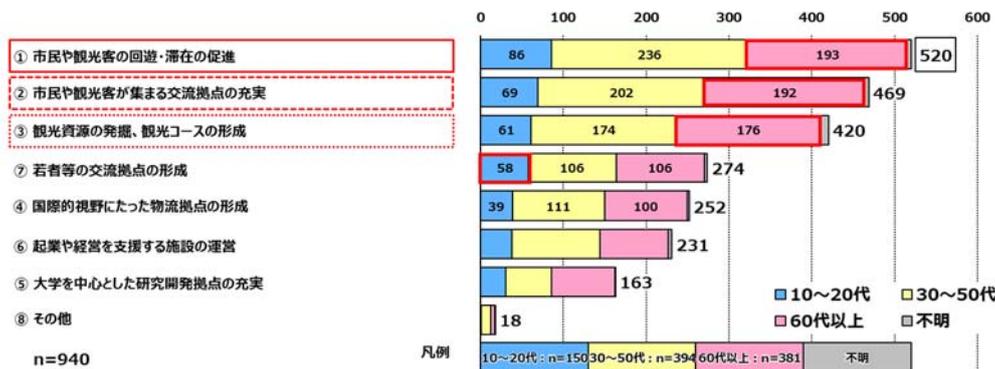
(6) ひと・もの交流まちづくりの取り組み〔問 16〕

ひと・もの交流まちづくり（観光、物流、学術研究）としては、「市民や観光客の回遊・滞在の促進」が力を入れるべき取り組みとして多くの回答を得ています。次いで、「市民や観光客が集まる交流拠点の充実」、「観光資源の発掘、観光コースの形成」の順に多い回答となっており、観光についての取り組みの優先度が高くなっております。

各年代、全体集計と同様に観光の取り組みに対する優先度が高い状況となっていますが、「10～20代」では、約3割の人が、「若者等の交流拠点の形成」を選択しています。

「60代以上」についても、全体集計と同様に観光の取り組みに対する優先度が高い状況となっていますが、「市民や観光客の回遊・滞在の促進」、「市民や観光客が集まる交流拠点の充実」、「観光資源の発掘、観光コースの形成」について、いずれも同等程度の回答を得ています。

【ひと・もの交流まちづくりで、力を入れるべきと思う取り組み】



※値の単位：名

(7) 今後のまちづくりの進め方〔問 17〕

将来にわたって住み続けられる千歳市を実現するために、今後求められるまちづくりの進め方として、「中心市街地地区だけでなく、身近なところにも生活を支える一定の機能を確保し、交通ネットワークでつなぐ」が最も多くなっており、約6割の人が選択しています。

次いで、「計画段階から市民の意向を反映して、ニーズに合った効果的な計画を立案する」、「老朽施設を更新するとき、維持管理必要や手間のかからない仕様・方法に切り替える」が多くなっています。

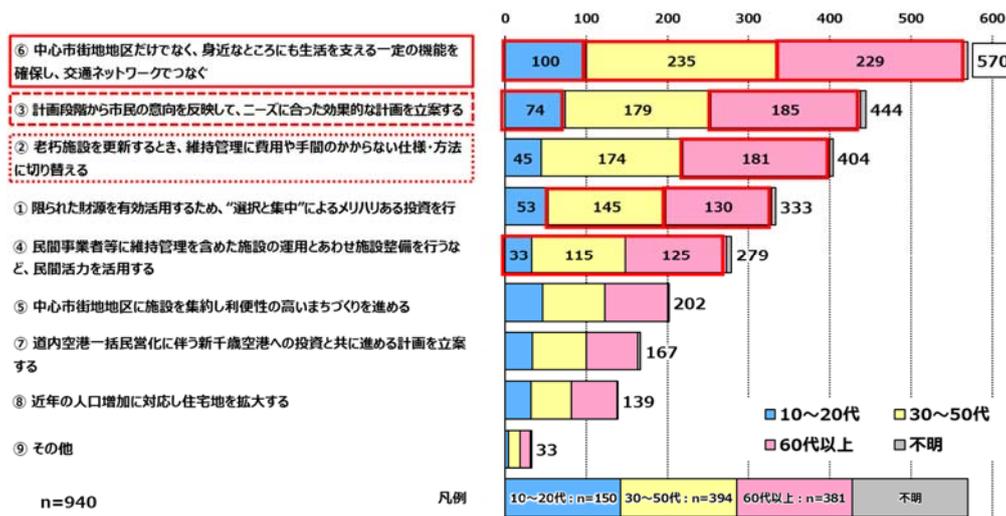
「10～20代」では、全体集計と同様に「中心市街地地区だけでなく、身近なところにも生活を支える一定の機能を確保し、交通ネットワークでつなぐ」が最も多くなっています。次いで、「計画段階から市民の意向を反映して、ニーズに合った効果的な計画を立案する」が多くなっており、2つの回答に集中している傾向となっています。

「30～50代」では、全体集計と同様に「中心市街地地区だけでなく、身近なところにも生活を支える一定の機能を確保し、交通ネットワークでつなぐ」が最も多くなっています。その他の取り組みについても全体と同様の傾向となっていますが、「限られた財源を有効活用とするため、“選択と集中”によるメリハリある投資を行う」の回答割合も3割を超えています。

「60代以上」では、全体集計と同様に「中心市街地地区だけでなく、身近なところにも生活を支える一定の機能を確保し、交通ネットワークでつなぐ」が最も多くなっています。次いで、「計画段階から市民の意向を反映して、ニーズに合った効果的な計画を立案する」「老朽施設を更新するとき、維持管理必要や手間のかからない仕様・方法に切り替える」が多くなっており、3つの回答に集中している傾向となっています。

また、「民間事業者等に維持管理を含めた施設の運用とあわせ施設整備を行うなど、民間活力を活用する」の回答割合も3割を超えています。

【今後求められるまちづくりの進め方】



※値の単位：名

(8) 全体を通して千歳市のまちづくりに関して考えていること〔問 18〕

全体を通しての千歳市のまちづくりに関する自由意見の回答者数は 299 名で、アンケート回答者の約 3 割の方が自由意見を記載しています。

自由記述の記載内容を 10 個の大項目で整理すると、「その他」を除き、「道路・交通」の項目が最も多く 96 件、以下、「商業地」の 47 件、「自然・景観」の 30 件、「公共施設」の 27 件と続きます。

「道路・交通」の内容を見ると、「公共交通の利便性」に関する意見が多くなっています。

| 項目 | 内容 | 意見数 |
|---------|---|-----|
| 1.住宅地 | 住宅全般について(6)、安全面について(2) | 8 |
| 2.商業地 | 中心市街地について(15)、業種・業態等について(31)、その他(1) | 47 |
| 3.自然・景観 | 景観等全般について(10)、沿道景観等について(7)、ごみ等について(2)、自然・景観(4)、騒音について(4)、維持管理について(3) | 30 |
| 4.道路・交通 | 渋滞等について(2)、公共交通について(36)、歩行者等の安全性について(10)、維持管理について(13)、除排雪について(15)、標識や信号等について(3)、個別の事項について(17) | 96 |
| 5.公園・緑地 | 維持管理について(3)、公園等の整備について(9) | 12 |
| 6.公共施設 | 利便性向上や有効利用について(1)、不足施設について(6)、施設配置について(2)、維持管理について(2)、医療施設について(8)、その他の施設について(8) | 27 |
| 7.観光地 | 観光全般について(10)、その他の観光地について(4) | 14 |
| 8.市民参加 | 町内会組織等について(1)、市民参加全般について(3)、イベントについて(2)、交流や見守りについて(1) | 7 |
| 9.防災 | 防災全般について | 2 |
| 10.その他 | まちづくり全般について(83)、その他の事項について(41) | 124 |